

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：深澤 淳志

事業名	一般国道4号 <small>こおりやま</small> 郡山バイパス		事業区分	地域高規格	事業主体	国土交通省 東北地方整備局
起終点	自：福島県須賀川市大字仁井田字大谷地 至：福島県本宮市荒井				延長	17.2 km
事業概要	<p>郡山バイパスは、福島県須賀川市～本宮市間に計画された延長17.2 kmの国道4号のバイパスである。うち延長約14 kmについては、地域高規格道路「郡山西環状道路」として位置づけられている。</p> <p>当道路の整備により、渋滞ポイント（<small>だいいしん</small> 台新交差点）における渋滞の解消や物流の効率化、ならびに東北新幹線や福島空港などの高速広域交通機関へのアクセス性の向上等、<small>こおりやま</small> 郡山都市圏の交通円滑化に大きく寄与するものである。</p>					
S49年度事業化	H6年度都市計画決定		S49年度用地着手		S50年度工事着手	
全体事業費	970億円	事業進捗率	97%	供用延長	17.2 km	
計画交通量	39,700台/日（平成42年度）					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.8 (残事業) 7.6	総費用：(残事業)/(事業全体) 25/164億円 事業費：21/160億円 維持管理費：4.1/4.1億円	便益率：(残事業)/(事業全体) 190/291億円 走行時間短縮便益：112/185億円 走行時間短縮便益：53/69億円 交通事故減少便益：25/37億円	基準年 平成20年度		
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施					
【残事業】	交通量変動	・ B/C=8.4(交通量 +10%)	B/C=6.4(交通量 -10%)			
	事業費変動	・ B/C=7.0(事業費 +10%)	B/C=8.3(事業費 -10%)			
	事業期間変動	・ B/C=7.0(事業期間+20%)	B/C=7.9(事業期間-20%)			
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> 国土・地域ネットワークの構築（地域高規格道路「郡山西環状道路」に位置づけられている） 安全で安心できる暮らしの確保（三次救急医療施設へのアクセス向上が見込まれる） 他16項目に該当 					
関係する地方公共団体等の意見	<p><small>こおりやま</small> 郡山バイパスは、地域間交流の促進、交通混雑の緩和等に重要な役割を果たすことが期待されており、郡山市をはじめとする6市18町17村の首長で構成される福島県中・県南・会津地区国道協議会より早期整備の要望（平成20年10月21日）を受けている。</p>					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	事業進捗率は97%であり、現在、用地買収及び針生高架橋上部工を推進中。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見直し等	平成21年度針生地区立体化（4車供用）を目標に事業を推進しており、事業進捗に関わる問題はない。					
施設の構造や工法の変更等	針生高架橋について、機能分散型支承の新技术を採用することによるコスト縮減を図る。					
対応方針	事業継続					
対応方針の理由	以上の状況を勧案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図	<p>事業再評価箇所：国道4号 郡山バイパス L=17,200m 平成7年度：全線暫定2車線供用(2/4) 平成14年度：全線4車線供用(4/4) 平成18年度：針生高架橋暫定2車線供用</p>					

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額の割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。